

## 「つくる責任」と「つかう責任」

私が中学二年生の時に通っていた習い事の監督が、鞆に虹色のバッチを付けているのを見て疑問に思ったことがあります。監督に虹色のバッチの意味を聞くと「持続可能な開発目標」という意味が込められていることが分かりました。そして今、「SDGS」という言葉で話題となっています。

私が今回注目したのは、目標 12 の「つくる責任 つかう責任」です。最近、食料廃棄物についてとりあげられているテレビを見ました。企業の食料廃棄物を受け入れている所では、まだ消費期限が切れていないのに捨てられている食べ物がほとんどだそうです。いつもは美味しそうにお店に並んでいる食べ物が虚しく積み重ねられているのを見て、すごく衝撃をうけました。私はもっと詳しく知りたいと思い、調べてみると日本の食料廃棄物は年間 2531 万トン、このうちまだ食べられるのに廃棄されてしまう食品（食品ロス）は 600 万トンということが分かりました。

そしてそれらを処理するための費用に税金約 8000 億円が使われています。

高校生の私達にとっていちばん身近な税金といえば消費税ですが、去年 10 月に 8% から 10% へ増税されました。増税の理由は年金や医療などの社会保障を維持するための費用にするためです。増税するという方法だけでなく食料廃棄物の処理費用を減らすことで、税金の使い道がもっと増えると思います。そして、温室効果ガスの削減にも繋がります。食料廃棄物の処理費用を減らすためには、私達の生活から見直す必要があります。買い物の際に買いすぎないことや、できるだけ手前に置いてある食品から購入することなどのちょっとした工夫で廃棄される食品の量が変わってくるのではないのでしょうか。

また、コロナの影響で学校が休校となり、給食用に出荷する予定だった野菜などの売れ残りが増えましたが、売れ残った野菜をスーパーで売るという取り組みが行われていました。

このように協力して取り組むことは税金の使い道の幅を広げることに繋がっています。

はじめは簡単なことからでいいと思います。一人ひとりが食べ物に対してのありがたみをもっと大切にし、国のため、地球のためと思えば行動できるのではないのでしょうか。

「つくる責任」と「つかう責任」。

小さなことからひとつずつ変えていくことがこれからの未来を生きるわたしたちにとって大切なことだと私は思います。

## 「国々の違い」

私は前に海外諸国が日本に比べ、消費税が二・三倍高いのに、それほど苦ではないという。どうして、日本より税率が高いのにあまり困っていないのだろうか。日本では現在、物を買ったり、サービスを受けたりする時に十%の「消費税」を払うことを義務づけられている。他にも働いた給料のなかから、個人の所得に対して納税する所得税や地方公共団体によって違う地方税がある。全国から納められた税はどのような保障となって返ってきているのだろうか。税金は主に社会保障に使われている。医療や年金、社会福祉といった暮らしに関わることに使われている。他には道路整備や建設などの公共事業、学校などの教育に関わる文教及び科学振興費、そして、今現在、全世界に脅威を奮っている新型コロナウイルス感染症の対策費も国民から納められた税金から支出されている。今現在、日本は税金がなくてはならない存在となっている。しかし、こんなにも頼られている税金は今現在の日本では賛否に分かれている。では、ここで本題に戻ろう。なぜ、海外諸国は日本に比べ、税率が二・三倍以上も高いのに、国民はそれほど苦ではないだろうか。それは、保障が日本よりより充実しているためである。海外ではより質の高い保育や医療への免除、子どもの教育のための資金を負担するなど、あらゆる場において、しっかりと保障が充実しているため、あまり苦ではないそうだ。それに、日本に比べ、少し変わった税も存在する。しかし、これだけの税があったとしても多くの保障がなされているため苦になることはやはりないだろう。

以前、私は中学生の時、税についての学習をした。その時は、「もし税がなかったら」というテーマの基、学習してきた。しかし、問題はそこよりも、税がどのように使われ、人々が安心安全で暮らせていけるのかが大切だということを学んだ。

今、税が必要なのかといわれれば無論、必要であると答えるだろう。しかし、海外諸国と同じような高福祉・高負担にするのか、また、今の日本である中福祉・低負担なのかどちらかを選ぶといわれればしっかりと答えることができるかは分からない。しかし、どちらも税によって暮らしが豊かになっているのは事実だ。

そして、大人になるにつれ、税と向き合うことが増えてくる。そのような時は、これまでの学習を思い出し、しっかりと税と向き合っていこうと思う。